様式１

令和５年度　授業改善推進プラン（中学校・学年用）

第三中学校　　第１学年

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　福生市学力・学習状況調査の結果 | | | | | | |
|  | 分類 | 意識調査の質問項目 | | | 学年 | 全国 |
| 学びに向かう力 | 感情の  コントロール | ８　家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。 | | | ９７．５％ | ９４．６％ |
| 53　自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。 | | | ７５．０％ | ７２．０％ |
| 54　自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。 | | | ９０．０％ | ９３．５％ |
| 目標の達成 | 18　普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることがある。 | | | ６３．８％ | ７４．４％ |
| 26　ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。 | | | ９５．０％ | ９２．６％ |
| 他者との協働 | 117　私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。 | | | ８８．８％ | ８９．８％ |
| 学力と関係が深い質問 | 30　新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。 | | | ５１．３％ | ５７．６％ |
| 35　板書に書かれていないことでも、大事なことはノートに書きとめている。 | | | ５０．０％ | ６０．０％ |
|  | 観点・領域名 | 学力調査の分析　○成果　▲課題 | | | | |
| 国語 | 話す力・聞く力 | ○全国平均正答率を上回る設問はなかった。  ▲全国平均正答率を11.2ポイント下回り、（ 山田さんの提案理由を選ぶ ）設問に課題がある。 | | | | |
| 書く力 | ○全国平均正答率を3.7ポイント上回り、（ 報告文の書き方の工夫について、正しい説明を選ぶ ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を18.0ポイント下回り、（ 心情をまとめたノートの空欄にあてはまる言葉を書く ）設問に課題がある。 | | | | |
| 読む力 | ○全国平均正答率を2.1ポイント上回り、（ 表に関係のある段落を答える ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を18.0ポイント下回り、（ 心情をまとめたノートの空欄にあてはまる言葉を書く ）設問に課題がある。 | | | | |
| 言語についての知識・理解・技能 | ○全国平均正答率を3.2ポイント上回り、（ 二字＋二字の構成の四字熟語を選ぶ ）設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を17.7ポイント下回り、（ 前の二字が後ろの一字を修飾している構成の熟語を選ぶ ）設問に課題がある。 | | | | |
| 数学 | 数と式 | ○全国平均正答率を2.2ポイント上回り、乗除の混じった計算を計算する設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を10.7ポイント下回り、文字式で正しいものを選ぶ設問に課題がある。 | | | | |
| 図形 | ○全国平均正答率を3.5ポイント上回り、およその図形を選ぶ設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を8.3ポイント下回り、点対称な図形の性質を答える設問に課題がある。 | | | | |
| 関数 | ○全国平均正答率を2.0ポイント上回り、関係を表す文で正しいものを選ぶ設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を2.9ポイント下回り、比例の関係を表す式を選ぶ設問に課題がある。 | | | | |
| 資料の活用 | ○全国平均正答率を0.9ポイント上回り、中央値を答える設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を2.2ポイント下回り、すべての組み合わせを答える設問に課題がある。 | | | | |
| 英語 | 聞くこと | ○全国平均正答率を4．4ポイント上回り、身近な内容の聞き取りの設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を0．4ポイント下回り、必要な情報の聞き取りの設問に課題がある。 | | | | |
| 読むこと | ○全国平均正答率を3．7ポイント上回り、単語の読み取りの設問に成果がある。  ▲全国平均正答率を下回る設問はなかった。 | | | | |
| 書くこと | ○全国平均正答率を上回る設問はなかった。  ▲全国平均正答率を8．1ポイント下回り、文字の記述の設問に課題がある。 | | | | |
| ２　生徒の実態 | | | | ３　生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | | |
| 【様式２に記載】 | | | | 【様式２に記載】 | | |
| ４　ミライシードとの連携機能を活用した取組 | | | | | | |
| 個別ドリルの実施状況 | | | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　○．○％（○人／76人中） | | | |
| 確認テストの実施状況 | | | 令和５年８月末時点で完了している生徒　　○．○％（○人／76人中） | | | |

様式２

令和５年度　学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校　　第１学年

|  |  |
| --- | --- |
| 国語科 | 教科担任　　湯浅　愛、平良武也 |
| 生徒の実態 | 学力調査の結果、正答率で全国平均を5ポイント以上上回っていたのは「熟語の構成」の問題1問だけであった。一方、各領域で基礎・応用を問わず5ポイント以上正答率が下回っている問題が２～３問程度ありすべての領域において課題があると考えられる。普段の授業の取り組みや、授業アンケートでは多くの生徒が国語の授業に積極的であり、課題にも意欲的に取り組んでいる。特に話す力の高い生徒が多いように感じられる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | 授業で出された課題や指示に確実に取り組むことができる生徒が多いため、既習事項の復習をこまめに行ったり、テストの振り返りや解き直しを行ったりして課題を一つずつ克服していくようにしていきたい。 |
| 社会科 | 教科担任　　河野　伸二郎 |
| 生徒の実態 | ・学習に対して意欲的に取り組む生徒が多い一方、基礎が身についていない生徒もいる。  ・小学校での既習事項が未定着の生徒もいる。  ・文章で説明することに苦手意識を持っている生徒が多い。  ・コロナウイルスの影響などもあり、生活体験が不足しているため、学習内容と実生活が結びついていない生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・学習内容を小テスト形式で確認する機会を設ける。  ・単元における小学校の学習とのつながりを意識し、導入時に確認しながら進める。  ・学習のまとめの際に、社会的事象の特色や自分の考えを記入し、他者に説明させる時間を設ける。また、習熟度に応じて、まとめる方法を制限することで、表現力を高めていく。  ・導入時に、ICT機器などを活用し、視覚的に節の探求課題や学習課題に疑問をもたせるように工夫する。 |
| 数学科 | 教科担任　　志村　聡　　関　　隆史 |
| 生徒の実態 | 日々の授業に対して真面目に取り組んでいる生徒が多い。しかし、小学校で既習の計算や文字式の計算といった基本的な計算を苦手にしている生徒が多くみられる。また、成り立つ理由を説明する問題、関数や図形の関係を利用して説明する問題を苦手にしている生徒が散見される。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | 繰り返し問題演習する必要があるので、授業の中での演習する時間を確保していく。また授業後に宿題を出し、生徒が演習や振り返れるようにしていく。授業の中で成り立つ理由を説明や答えを出した過程を説明する機会を意識的に確保していく。 |

第三中学校　　第１学年

|  |  |
| --- | --- |
| 理科 | 教科担任　　堀　和宏 |
| 生徒の実態 | ・積極的に発言したり、実験・観察に意欲的に取り組めたりしている。  ・計算力に課題がある。  ・論理的に思考することが苦手な生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・計算問題の演習の時間を授業に組み込む。  ・毎回の授業で生徒が思考できるような発問をし、思考と発表の時間をとる。 |
| 音楽科 | 教科担任　　田中　悦子 |
| 生徒の実態 | ・積極的に授業に取り組んでいる。歌唱では、学習して得た知識を実践しようと努力している。  ・合唱練習では、グループ活動において協力して学ぼうとする生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | **・**毎回の授業では、目標をより具体的に掲げ、達成度をあげていく。  **・**教材の選定は達成感のある曲にする。  ・グループ学習では、リーダー力の向上を図りより充実させる。 |
| 美術科 | 教科担任　　大倉　知恵 |
| 生徒の実態 | ・積極的に題材に取り組む姿勢がある。  ・お互いにアドバイスをすることが出来る。  ・自分の表現したいイメージについて、考えを練っていくことが足りない。  ・作品をより良くするために色々と試し、工夫することができていない。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・お互いにアドバイスをすることは継続し、どのように自分の作品に生かしていくかを考えさせる。  ・進行状況を見ながら、もう一度作品について考えさせ、より良くしようとする姿勢を育てる。 |

第三中学校　　第１学年

|  |  |
| --- | --- |
| 保健体育科 | 教科担任　　黒栁　真吾 |
| 生徒の実態 | ・体育分野、保健分野ともにとても意欲的かつ積極的に取り組む生徒が多い。  ・男女ともに苦手なことに挑戦しようとする姿勢が多く見受けられるが、運動に関して  苦手意識をもつ生徒もおり、継続して取り組むことが難しい生徒もいる。  ・前向きにきちんと取り組むことができている。  ・体力面では男女ともに両極端である。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・体育分野では、ペア学習やグループ学習を取り入れ、さらに主体的に取り組めるようにする。また、ICTの導入により学習意欲を高めていく。  ・体育分野、保健分野ともに、授業内に考察する時間、自分の意見をまとめる時間、振り返りの時間を設け、共有する時間をつくる。  ・ICTを取り入れ、単元の始まりと終わりの変容を振り返り、技能の習得や授業の取り組みに繋げていく。 |
| 技術科 | 教科担任　　久保田　翔子 |
| 生徒の実態 | ・非常に積極的に取り組む。とくに製作作業においては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。  ・集中してインプットし、失敗を恐れずに挑戦できる生徒が多い。積極的に質問もできるため、トライアンドエラーを繰り返しながら基礎技能を定着できている。  ・アウトプットにおいては課題がみられる。作業時や、講義を受けた後のレポート、作業を終えてのレポートなどで、学習したことを発揮・まとめることを苦手とする生徒が多い。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。  ・学習用iPadを活用し、カラー写真資料や動画配付を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。  ・グループ編成を工夫する。他者と協働しながら作業を進められるように、製作品が同じ者同士でグループを編成する。  ・毎時間の振り返りや単元ごとのレポート作成の時間を十分に確保する。  ・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。 |
| 家庭科 | 教科担任　　齋藤　芳子 |
| 生徒の実態 | ・男子は授業中での発言がとても多い。一方で、深く考えたり、いろいろなことと関連付けて考えることは苦手とする生徒が多い。  ・女子は深く考えたり、授業の内容をまとめる力がある。  ・作品製作は熱心に取り組んでいる。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ・能力の差にできるだけ対応できるよう、個人的に声をかけたり指導していく。  ・作品製作ではそれぞれの力に合わせた目標をもたせ、充実感・達成感を味わせる。 |

第三中学校　　第１学年

|  |  |
| --- | --- |
| 英語科 | 教科担任　　小林　真央　　藤原　陽子　　木村　紗也佳 |
| 生徒の実態 | ［聞くこと］小学校の英語の授業の影響から、英文の内容を聞いて理解できる生徒が多い。  ［読むこと］語彙力が低く、読めない単語があると行き詰ってしまう生徒が多い。  ［話すこと（やり取り）］英文の正確さは完璧ではないが、ペアでの言語活動にとても意欲的に取り組むことができる。  ［話すこと（発表）］英語で話すことに慣れておらず、原稿をずっと見た状態や、英文にカタカナを振った状態で発表する生徒が目立つ。  ［書くこと］低年齢からタブレット学習を行う際に、ローマ字を使用しているため、英文を書く際もローマ字に依存してしまう。 |
| 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組 | ［聞くこと］授業の進度にあわせて副教材を活用する。  ［読むこと］新出単語の練習を繰り返し行い、教科書の音読指導に重点を充てる。また、単元ごとにreading testを実施していく。  ［話すこと（やり取り）］skitやペアワークを多く取り入れていく。  ［話すこと（発表）］年間で数回は、発表のパフォーマンステストの機会を設ける。発表後には必ず振り返りを書かせ、他者の良い点・自己の改善点を見つめる時間を設ける。  ［書くこと］スペリングコンテストを実施し、語彙力を高める。また、毎回授業の終わりは書く活動を行い、その内容をALTに添削してもらうことで書く力を定着させる。 |